

第7回

布育のすすめ②簡単布おもちゃ作り～飾って遊べるクリスマス～



講師 さとう ゆきこ 氏

布育って？

私は布おもちゃを通して、子どもたちの心身の健やかな成長に寄り添い、布おもちゃ作家として、活動しています。

素敵なおもちゃがあると、遊びが豊かになります。たっぷり遊んだ子どもは、心も体も健やかに育っていきます。触れているだけで癒される、見ているだけで笑顔になれる布おもちゃ。一緒に作って、一緒に遊んで、一緒に育てていきましょう。

子どもは遊びの中で学ぶ

私たち保育者は、子どもの遊びのプロとして、子どもがいろいろな遊びをする中で学べるよう考えます。身体的な機能であったり、言葉であったり、様々な力がつきます。大人が一方的に教えるだけでは身につかない力がつくのが、遊びです。大人は、子どもを前にすると、ついつい教えたくなくなってしまいますが、子どもの自ら育とうとする力を大事にしてほしいと思います。遊びというところがあるかもしれません。しかし、子どもの遊びは育っていく上で大切なものなので、決して暇つぶしではありません。

おもちゃの役割

おもちゃは、遊びを助ける道具です。環境の一つとしておもちゃがあり、それで遊ぶことで、身体能力、認知、知識、言葉、ルール、創作、知的な好奇心、コミュニケーションなど様々な力がついていきます。

適切なおもちゃがあることで、豊かな経験をして、心と体の発達が促され、成長していきます。

子どもの年齢や月齢などの発達に合わせたものや子どもの興味に合った適切なおもちゃが必要です。

サンタマスコットを作ろう

◆材料

- ・フリース生地【赤】（半径12cm・120°）
1枚
- 【白】帯（1cm×15cm）1枚
- ・フェルト生地【赤】丸（直径27mm）1枚
- 【白】丸（直径15mm）1枚
- 【黒】帯（5mm×20cm）1枚
- 【ベージュ】半円1枚
- ・目ボタン 【黒】2個
- ・プラ鈴 1個
- ・ゴム紐 1本
- ・刺しゅう糸【赤・白・黒・ベージュ】各2本
- ・手芸用綿

素材

今回は、フリース生地を使います。今日使用したフリース生地は、片面がふわふわとしています。フェルトより毛玉になりにくい素材です。フリース生地は、切りっぱなしにしてもほつれてくるのが少なく、生地が厚く感じますが、布目が荒いので、針が通りやすく、縫いやすいのも特徴です。生地がふわふわしているので、縫い目が目立たないのも特徴です。着なくなったフリース素材の上着等の生地を利用して作ることもできます。

作り方

- ① フリース生地（扇型）を中表に二つ折りにし待ち針を3～4本打ち、線上を縫う（なみ縫い）。

待ち針は、縫う線と直角になるように打ちます。針先は、布から長く出すと指に刺さりやすくなってしまうため、布から少し出るようにして打つとよいでしょう。

刺しゅう糸の束ねた糸の中から1本を取り出す方法は、束ねたまま2つ折りにして、真ん中から1本を引き抜くようにします。

縫い目が大きくなると、後で綿を入れたときに縫い目の隙間から子どもが指を入れて中の綿を引っ張り出してしまいます。縫い目は子どもの指より小さくするとよいでしょう。

- ② 裏返して、手芸綿を詰める。

生地を裏返したら、最初に半分くらいまで綿を入れていきます。先の方は、綿を小さめにちぎって入れて、細い棒で押し込むときれいな形に仕上がります。

- ③ 上部の端から1cmのところを、ぐるっと1周なみ縫いする。

2枚縫い付けるのではなく、一枚をなみ縫いします。後でぎゅっと糸を引っ張るので、玉留めが小さいと糸が抜けてしまいます。いつもより玉留めは大きくしておくことがポイントです。糸が足りなくなっても玉留めして切ってしまうわずに、引っ張って縫い続けるか長い糸に替えて縫うようにしてください。一周縫い終えたら、玉留めをせずに次の行程に移ります。

- ④ 残りの手芸綿とプラ鈴を詰める。

プラ鈴は、綿の中に入れても音が鳴るように

二重構造になっています。プラスチックなので、洗濯をしても錆びないところもポイントです。鈴の周りにも手芸綿を入れます。おにぎりかというと、プラ鈴を梅、手芸綿をご飯のようにして詰めていくとよいでしょう。いっぱいまで手芸綿を詰めます。

- ⑤ 糸を引いて縮め、留める。縫い代は、内側に入れる。

ぐるっと一周している糸を引っ張ります。集まったフリースの端の部分は中に押し込むようにすると、後の仕上がりがきれいになります。後で縫いつける赤い丸のフェルトより穴が小さくなるようにし、入口が絞れて小さくなったら玉留めをします。綿が少ないと感じたら、穴から綿を詰めることもできます。

- ⑥ 隙間を塞ぐように、赤・丸フェルトを縫いつける。

赤の糸一本どりで、赤の丸フェルトをたてまつりで縫っていきます。穴から綿が見えないようにしてください。綿が見えてしまうと、子どもはすぐに見つけて引っ張り出してしまいます。たてまつりは、主にアップリケなどを縫いつけるときの縫い方です。詳しい縫い方は、動画をYouTube「布育チャンネル」でも配信していますので、ご覧ください。

- ⑦ 顔（ベージュフェルト）とベルト（黒帯）を配置し、縫いつける。

顔…たてまつり ベルト…なみ縫い

赤いしずく型は、帽子の先から体までになっています。顔をつけた後、ベルトもつけますので、顔を下の方に付けてしまうとバランスが悪くなってしまいます。一度、待ち針でつけてみましょう。ベージュフェルトの半円の丸い方が

下になるようにして赤い体にたてまつりで縫いつけます。上の直線のところは、縫わずに空けておいてください。後で白い帽子のふちを縫いつけて目立たなくなりますので、安心してください。

顔を縫いつけたら、ベルトをなみ縫いで縫いつけていきます。ベルトの端と端が少し重なるくらいに縫いましょう。

- ⑧ 目ボタンを付ける。最初と最後の玉留めは、帽子のラインに隠れる位置にする。

目ボタンは、四角を描くように縫い付けていきます。四角を描くように縫うことで、普通の縫い方よりも強くなりますので、目ボタンはこの縫い方をお勧めします。取れて口に入れてしまうのが心配な場合は、ペン書きや刺しゅうで目を作ることをお勧めします。

- ⑨ 帽子のライン（白帯）を縫いつける。

長細い白のフリースを顔の上になみ縫いで縫いつけます。

- ⑩ ゴムひもを縫い留める。ゴムひもを挟むように、白色フェルトを縫いつける。

ゴムひもの結び目が隠れるように丸い白フェルトと帽子の先端で挟んで縫いつけます。今回は、丸い白いフェルトをつけますが、白い小さなぼんぼんをつけても可愛らしいです。小さなぼんぼんは、100円ショップの手芸コーナーで売っています。

◇サンタマスコットアレンジ

○綿を詰めて、下の方にビー玉等の少し重みのあるものを入れると、起き上がりこぼしのようになって楽しいと思います。

○大きさをいろいろ変えて作ってみるのもい

いですね。

○オーナメントとして壁やツリーに吊るすと可愛らしいです。

○ゴムを腕にはめて鈴を鳴らして楽しめます。

◇クリスマス布おもちゃ

☆キャンディーのオーナメント

端をギザギザのピンキングばさみで切った長方形の布(クリスマス柄のものがあれば、よりいい)を半分に折って、直線を縫い筒状にします。真ん中に綿を詰めて輪ゴムで両端を止めます。綿を詰めたり輪ゴムで止めたりするのは子どもたちもできるので、材料を用意しておいて、子どもたちと作ると楽しいと思います。ツリーに飾るのはもちろんのこと、クリスマス会のお土産に持ち帰るのにもよいでしょう。

☆ポンポンリース

7cm×15cmの布を用意して、半分に折って直線縫いをし筒状を作ります。端は、サンタマスコットの下のように、なみ縫いで絞り、中に綿を詰めてボールを作ります。たくさん作って、それを糸で通して結ぶとリースが出来上がります。

このポンポンを白で繋げるとスノーマンになります。帽子や顔や飾りをつけます。

詳しい作り方は、YouTube「布育チャンネル」でも配信していますので、気になる方はご覧ください。

☆星型クリスマスツリー

大きさを変えて星型のミニクッションを5個作り、真ん中を糸で繋げてぎゅっと絞り、ツリーを作ります。

☆三角ポッチ

正三角形の身にクッションの角の両面にスナッ

プボタンをつけて、ピラミッド型や大きな三角にしてツリーのような形にして楽しめます。5歳児になると形を意識して遊ぶことができ楽しいです。

☆クリスマス絵合わせカード

裏は同じ色のフェルトで雪の結晶の模様を付けました。表面には、クリスマスのモチーフを貼ります。

2枚ずつ作り、トランプの神経衰弱のように、セットの絵がそろうのを当てて楽しんだり、ひもをつけてツリーに飾るのも可愛らしいです。

☆輪投げクリスマスツリー

中の茶色の木は、サンタマスコットの体と同じ要領で作ります。そこに大きさの違うドーナツ型のリングを作って木に通します。

布のクリスマスグッズを作るわけ

クリスマスのは、キラキラしていたりヒラヒラしていたり、揺れていた、非日常的で魅力的です。好奇心旺盛な子どもにとっては、手に取って触ってみたいのですが、そんなときに「壊れちゃうから、触らないで。」「見るだけにしようね。」と言ってしまうことがあると思います。せっかくクリスマスを楽しむために飾っているのに、怒られてしまったり禁止したりしてしまうのは、とても残念なことです。

それで、私は布でクリスマスのおもちゃを作ることになりました。布おもちゃであれば、触っても引っ張っても投げても壊れたりすることがありませんので、子どもに思う存分遊ばせてあげることができます。子どもが遊んでいないときには飾って見て楽しみ、子どもが遊びたくなったら、楽しむ…というように大人も子どもも楽しめるクリスマスのためにクリスマス布おもちゃを作っています。

発達段階に沿った行事

幼児クラスの行事に「せっかくだから。」「園の一員だから。」と乳児も参加して、無理をさせてしまっていることはありませんか。乳児クラスも楽しめる行事であればよいかと思いますが、子どもたちがまだ楽しめない発達段階だとしたら、そこは見直してみてもよいのではと考えます。「毎年やっているから。」ではなく、発達段階に合わせた行事の参加の仕方を考えてほしいです。幼児は、行事によって厳かな雰囲気だったり、丁寧に扱わなくてはいけないものを扱ったりすることもあるかと思えます。クリスマスツリーは、一年に一度しか出でこない貴重なものだから、横を通るときに緊張する経験も必要です。乳児、幼児それぞれの発達段階に合った行事の在り方と大人のためではなく、子どものための行事だということを第一に、園でも考えてください。



第7回 焼津市保育者資質向上研修会
令和4年12月16日(金)
オンライン(各園)・焼津市役所大会議室1B